GREEN Sketch

AUTUMN 1998
No.4

全国都市緑化にいがたフェア新津会場（新潟県立植物園）

CONTENTS

●INTERVIEW　カーラ・チューネさん
●第15回全国都市緑化にいがたフェア
●植物に親しむ
●公園紹介～国営越後丘陵公園
●緑花イベント情報
●基金事業紹介
●緑の愛護団体紹介

（財）新潟県都市緑花センター

世界で一番伝統のある植物園からのメッセージ

INTERVIEW

オランダ国立ライデン大学付属植物園キューレーター　カーラ・チューネさん

全国都市緑化にいがたフェアの新津会場にある新潟県立植物園の完成記念講演会の講師としてオランダから来日されたカーラ・チューネさんにお話を伺いました。

名誉と権威あるキューレーター

――キューレーターというのはどのようなお仕事なのですか。

カーラさん　科学的なことの調査・研究については大学の教授レベルの方が担当しています。キューレーターというのは植物を日々管理していく技術面の総責任者ということになります。温室内、屋外の植物がきちんと育っているかをチェックし、また、子供から大人まで市民の人々に、植物についての教育をしていくというのが私の仕事です。

――キューレーターにはどうしたらなれるんですか。

カーラさん　特に資格試験はなく、経験によって就くことのできる職業です。現在オランダには、キューレーターが3人しかいません。植物園自体がそれほど数多くあるわけではありませんから、そんなに必要ないんです。

――日本でいうキューレーター（学芸員）とは異なるのですね。ヨーロッパではキューレーターという職業は名誉のあるものだと聞いています。それは市民の植物に対する意識が高いからでしょうか。

カーラさん　そうですね。自分ではそんなに偉いなんて思ってないですけど。（笑）あくまで、自然体でいたいんですよ。

日本人とオランダ人

――花に対し、日本人とオランダ人の意識の違いが大きいと思うのですが、オランダの人々が、花に対して強い意識をもっているのは、なぜだと考えますか。やはりオランダの方が植物についての歴史が長いからでしょうか？

カーラ・チューネさん

園芸技術学校卒業後、ベルギーの樹木園に勤務。その後、オランダ国立ライデン大学付属植物園で園芸秘書を務めた後、チーフに。1984年より同植物園のキューレーター（女性では世界初）。また、シーボルト研究の第一人者。

カーラさん　植物に対する歴史はオランダより日本の方が長く、その事が意識の違いに関わっているわけではないと思います。実際、オランダではどんどん混雑がおき、住宅等が建って緑が少なくなってきて、緑を大切にしなければという意識が芽生えてきたんですね。それがオランダ人の花を大切にしましょうという気持ちに繋がったんだと思います。

――日本では、極端な言い方をすると、自分の庭はきれいにするけれど、公共の場には関心を持たないという風潮がありますが、それについてどう思いますか。

カーラさん　日本について必ずしもそのようには思いませんが、ヨーロッパに比べると公共の場に対する意識や、環境についての意識が低いように思います。絶滅に瀕する品種に関しても、無差別に採取するなど配慮が少ないように思います。環境問題は自分の住んでいる場所だけの問題ではなくて全世界に関わる問題ですから、自分さえよければいいということではないんですよね。

新潟県は全国でも有数のチューリップの産地で、オランダとは古くから密接な関係がありました。そして今、オランダとの新しい交流が始まりました。

植物をきっかけに、いろいろな事を情報交換できる関係を育んでいきたいですね。

オランダ国立ライデン大学付属植物園

シーボルト木が日本へ里帰り

―オランダ国立ライデン大学付属植物園から素敵な贈り物―

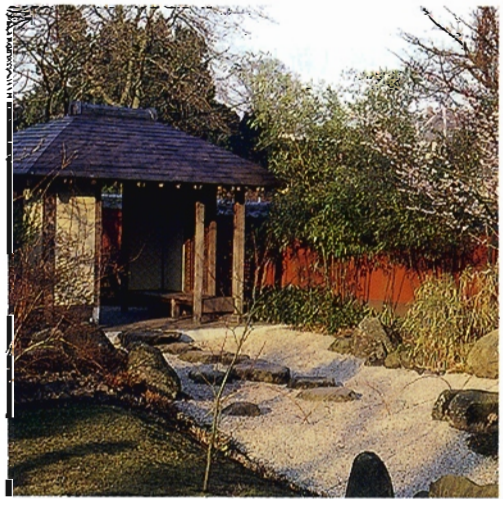
シーボルト博士といえば、鎖国時代に日本で医学や博物学を教えていた人物だということは有名です。

しかし、日本の植物を研究し、帰国の際に日本の植物を持ち帰り、そのうちの15種類が世界でもっとも伝統のあるオランダ国立ライデン大学付属植物園でいまも生き続けていることはあまり知られていません。

新潟県立植物園では開園の記念に「ケヤキ」、「ナツヅタ」、「イロハモミジ」の里帰りが実現しました。

その橋渡しをされたのが、シーボルト研究の第一人者のカーラ・チューネさんです。

新潟県立植物園に展示



シーボルト記念庭園（1990年にライデン大学付属植物園開園400周年を記念して園内に作られた。）

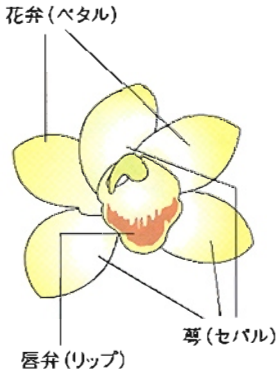
植物に親しむ

[シンビジウム]

ランの中でも品種が多く、丈夫で育てやすい為、家庭でも親しまれているシンビジウム。毎年美しい花を咲かせる為の育て方を紹介します。

シンビジウムとは

ラン科のシンビジウム属の多年草。東南アジアの高地や、オーストラリア、マレー半島に地生、半着生しています。名前はギリシャ語の「舟」「形」に由来し、リップの部分が、舟の形に似ていることにちなんでいます。



花言葉…

「飾らない心」「高貴な美人」

購入のポイント

・葉色が良く、黒褐色の斑点のないものを選ぶ。

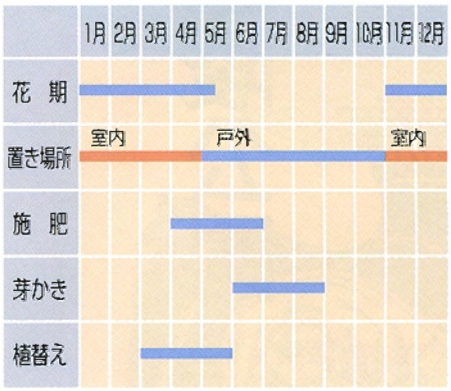
・バルブの太いものを選ぶ。

置き場所

11月～翌年4月までは、室内の日当りのよい場所に。5月～10月は戸外の風通しの良い明るい場所に置きしっかりと光合成をさせ、株を育てます。真夏の直射日光は葉焼を起こすので避けましょう。

水やり

室内では土が乾いてきたら、鉢の底から水が流れるまでたっぷりと与えます。受け皿にたまった水は、そのままにしておくと根腐れを起こすので、すぐに捨てます。戸外では雨にあて、晴れの日が続いた場合は夕方にたっぷり水を与えます。

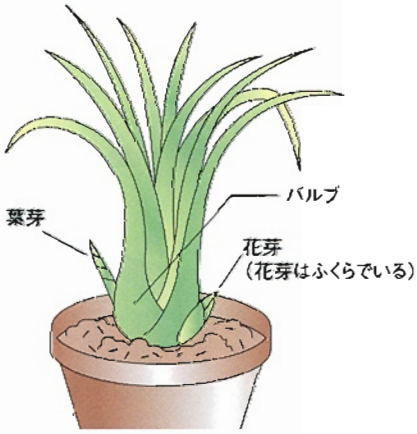


施肥

新芽の動きだす4～6月頃に肥料を充分に与えます。肥料を与えないと花つきが悪くなるので必ず与えましょう。置肥は月に1回、液肥は月に2～3回が目安です。

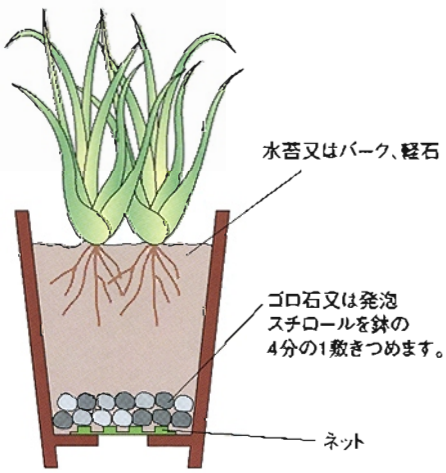
芽かき

6～8月になると新芽（葉芽）が、次々と伸びてきます。伸ばしっぱなしにすると株が太らず、花つきが悪くなるので、最初の2、3本を残し、後から伸びてきた芽は、芽元から切り取ります。



植え替え

根がつまっているもの、用土の古いものは植え替えを行います。時期は花が終わった後が適期です。根をほぐし、腐食した根、徒長した根を切り取ります。水苔や軽石、バーク等を用い、根が鉢におさまり株がしっかり固定するように植え付けます。株分けの場合は、3～4バルブずつに切り分けて、同様に植え付けます。



病虫害

カイガラムシ…スプラサイド液を散布すると予防できます。風通しのよい場所に置き、発生したら歯ブラシなどでかき取ります。

ナメクジ…見つけしだい、捕殺します。

軟腐病…新芽が茶褐色に変わる病気です。水のやりすぎに注意しましょう。